

事業者との意見交換結果について

観光まちづくりの充実・維持に係る財源のあり方に関する検討会議において実施可能と整理した「入湯税の超過課税」、「宿泊税」、「駐車場利用者への課税」の3つの財源確保策について、特別徴収義務者となることが見込まれる事業者と意見交換を行い、具体の課題等を整理したもの。

1 意見交換を行った事業者・実施日等

事業者	箱根温泉旅館ホテル協同組合	神奈川県公園協会
財源確保策の内容	入湯税の超過課税・宿泊税	駐車場利用者への課税
実施日	令和7年2月3日	令和7年2月26日
出席者 (同席者)	4名(理事長、副理事長) (検討会議：倉田委員(兼))	2名(参事) (検討会議：佐藤委員)

※町側は、石川企画観光部長、関田企画課長、特定政策係で説明、対応したもの。

2 意見交換の結果

事業者と意見交換を行った結果、「入湯税の超過課税」、「宿泊税」のうち、「宿泊税」は、課題や使い道に関する意見が多かったが、今後の進め方に関する意見もあった。一方で、「駐車場利用者への課税」は、検討に時間を要する課題等が挙げられた。

【財源確保策に対する意見等の整理結果】

確認内容	宿泊税	駐車場利用者への課税(町内全域)
実施にあたっての課題等	・新たに増える特別徴収義務者の捕捉や要する期間、申告納入等の対応 ・入湯税と宿泊税をそれぞれ徴収する際の説明の必要性 ・宿泊客の減少に対する懸念	・複数駐車場利用の課税手法の検討 ・無料・有料を含む対象駐車場の整理
財源の使い道	・観光関係施策 ・自然災害等の不測時の基金積立 ・住みやすく働きやすい町の施策	・全域の駐車場を課税する目的と使い道の根拠づけが困難
今後の検討の進め方	・箱根らしい規模感の宿泊税の導入やブランド価値の向上 ・使い道の議論に時間をかけるべき	
特別徴収義務者への配慮	・宿泊事業者への還元・メリット ・固定資産税超過課税の見直し	・設備改修や徴収に要する費用負担
その他意見等	・現在の入湯税の使い道への不信感 ・宿泊税・入湯税を含めた名称の検討	【大涌谷園地駐車場単体の課題等】 ・多岐にわたる交通手段との不公平感 ・路上駐車増加や交通渋滞の悪化 ・設置経緯や収益還元等の特殊性

※詳細は、別紙「箱根温泉旅館ホテル協同組合及び神奈川県公園協会との意見交換を踏まえた課題等の整理」のとおり

【資料 1 別紙】 箱根温泉旅館ホテル協同組合及び神奈川県公園協会との意見交換を踏まえた課題等の整理

確 認 内 容	入湯税の超過課税・宿泊税	駐車場利用者への課税
実施にあたっての課題等	【宿泊税】 ・新たに増える特別徴収義務者となる宿泊施設の捕捉やそれに要する期間、特別徴収に係る申告納入等への対応も課題の一つである。 ・入湯税と宿泊税の両方をいただく方、宿泊税のみいただく方が混在することから、宿泊事業者からお客様に対する説明が必要になる。 ・宿泊施設のうち、入湯税の課税対象とならない施設はどの程度いるのか。 ・周辺自治体が宿泊税導入に向けた検討を行っているが、宿泊税の実施により箱根町の観光客が減少することは想定していないのか。	【町内全域】 ・複数の駐車場を利用した場合、都度、課税するのかといった検討が必要である。 ・特に芦ノ湖周辺では、有料駐車場と無料駐車場が混在しているため、課税対象駐車場の整理が必要である。 ・駐車場利用者には宿泊者も多いため、仮に宿泊税と併せて実施した場合、観光客に対する課税が重複することになる。 ・事業者数が多く、駐車場の把握や調整等の手間も課題である。 【大涌谷園地駐車場】 ・大涌谷園地を訪れる方を対象とする場合、訪問する交通手段が多岐にわたるため、駐車場利用者だけに課税することは公平性が担保できない。 ・園地内唯一の店舗利用者のための駐車場としての機能も果たしているため、園地事業者等にも理解を求める必要がある。 ・実質的な駐車料金値上げに伴う路上駐車増加や課税額によって小銭が必要になった場合に精算時間が延びることに伴う回転率低下や出口渋滞の悪化が懸念される。 ・精算機器の改修や周知看板設置などの新たな設備投資や苦情対応も必要となる。
	【宿泊税】 ・観光関係にきちんと使っていただきたい。 ・財源不足という町の事情は理解できる部分もあるため、財源を増やし、町民への施策をもっと手厚くし、人口増に繋げてもらうなど、住みやすい、働きやすい町にしていれば良いのではないかな。 ・近年、自然災害や新型コロナが続いているため、いざという時に観光事業者へなんらか手立てをするために基金を積み立てるといった点にも配慮いただきたい。 ・近年では就業条件に福利厚生を重視する傾向が強いが、業種的に対応が難しく、従業員の確保が喫緊の課題である。	【町内全域】 ・町内全域に課税するとなると、駐車場利用者の目的はそれぞれあり、それら目的と使い道の根拠づけは難しいと感じる。 【大涌谷園地駐車場】 ・特定の駐車場に課税する場合、使い道を含め、特定の駐車場のみ課税する合理的理由が必要である。
今後の検討の進め方	【宿泊税】 ・早急に箱根らしさのある規模感の宿泊税を導入してもいいのではないかなという話やそれがブランディングに繋がるという話も耳にする。 ・全ての観光客から負担いただく議論も重要だが、実施が難しい場合は、それをはっきり示していただいた上で使い道等の議論に時間をかけるべきである。	
特別徴収義務者への配慮	【宿泊税】 ・特別徴収義務者となる宿泊事業者に還元する方法やメリットを上手く示してもらえれば、いただいた税をお客様に返す打ち手を出していけるのではないかな。 ・宿泊事業者は建物の固定資産税負担が大きいため、宿泊税を多く徴収し、その分、固定資産税を軽減するといったことも検討いただけると賛同しやすい。	【町内全域】 ・課税に伴う設備改修や徴収に要する費用については、町の負担を検討する必要がある。
その他	【入湯税】 ・温泉資源の維持管理に関する補助制度もなく、組合への交付金も削減されるなど不信感を持っている。 ・宿泊税を実施するのであれば、入湯税の使い道も整理していただきたい。 【観光税の取扱い】 ・本来は観光税として広く負担してもらう方法が最も望ましいが、入城税の手法としてETCの設置等は費用対効果を考えると現実的ではなく、具体的な徴収方法を思い描くことができないため、実施が難しいことは理解できる。 ・宿泊事業者の立場としては、箱根だけでも、例えば宿泊税と入湯税を含めたものを観光税という名称にしてもらえると、宿泊者に対して説明がしやすい。	【大涌谷園地駐車場】 ・駐車場の管理運営費等を除く運営収益は、既に箱根地域の自然保護や美化清掃事業等に還元しているため、一般の民間有料駐車場とは設置経緯が大きく異なる。